

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

今年度も4区ごとのブロック調整会議には、ほぼ全ての精神科病院が参加し、オブザーバーとして家族会が参加している。今年度の新たな取り組みとして、普及啓発活動に力を入れており、地域の三役員の代表798名に対し、精神疾患の理解と精神疾患のある方との関わりに関するアンケート調査を実施。また、今年度の新規事業である、社会資源見学事業、住環境整備試行事業を実施。

課題	課題に解決に向けた取組状況		取組の成果
高齢者支援機関との連携強化	精神科病院の入院患者の約半数が65歳以上であり、高齢者が地域で安心して暮らすためには、地域でともに精神障害者の支援を行う高齢者支援機関との連携を図り、障害理解を促す。		今年度から市町村業務が区役所へ移管した単独庁舎区において、高齢機関との座談会を設けるなどし、新たな協議の場が生まれている。ブロックの取り組みにおいても、高齢機関を招いた研修、病院見学ツアーを実施。
ピアサポーターの養成と活用	精神障害者地域移行支援・地域定着支援ピアサポーターを養成し、地域住民や、精神科病院の長期入院患者に対して、リカバリーストーリーを語ることで、普及啓発及び退院への動機付け支援を行う。		ピアサポーターが担う、退院への動機付け支援、普及啓発活動、双方の利用が進んでいる。名古屋市医師会が主催し、一般科の医師が参加する研修や、看護師向けの研修においても普及啓発活動を行っている。
課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①高齢者支援機関との新たなネットワークの構築や、既存のネットワークへの参加、研修会を通じて連携を図る。			
②地域移行支援利用者数(実人数)	75名/年	168名/年	医療機関、障害福祉サービス事業所等との協同促進。ニューロングステイの減少。
③ピアサポート活用事業利用件数	13回/年	24回/年	上半期のみで、昨年度の12回を上回っている。

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

- 圏域内の精神科医療機関が、精神科単科、総合病院など特徴がある。
- 一般相談支援事業所にも参加してもらうことで、医療機関との地域移行支援の調整がスムーズになっている。
- 令和元年度は課題別(住まい・地域移行・研修)のグループに分かれて協議した。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
地域援助事業者の不足、育成	3月5日にグループホーム・医療機関・相談支援事業所を対象とした研修を実施し、退院までに必要な支援を退院後に必要な支援についてグループワークを行う予定。	3月5日に実施予定。
住まいの確保の支援	ブロック内のグループホームにアンケートを実施し、資料としてまとめブロック構成機関に配布した。	グループホームの基本情報についてまとめることができた。
地域移行支援・定着支援の普及	退院後の生活のイメージが分かるようにDVDの作成を進めている。	DVDは完成していないが、色々なアイデアが出たし、同時にケースの話もできた。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①地域移行支援の利用者数	13人/年	22人/年	昨年度の活動の成果により利用されている。
②説明会・研修・意見交換会等の開催回数	6回/年	12回/年	顔の見える関係が深まった。
③ピアサポート活用事業の利用回数	3回/年	4回/年	事業の理解が広がりつつある。

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

- ①協議の場が設置され保健・医療・福祉の連携が取れて地域の課題が検討できる。
- ②病棟で保健・福祉関係者やピアサポーターが参加し年3回の個別相談会を実施している病院がある。
- ③高齢分野との連携がとれている区があり、先駆的な取り組みをブロック全体に横展していく必要がある。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
地域移行支援のさらなる促進	<ol style="list-style-type: none"> ①病院への地域以降支援や福祉制度の説明会に加え、生活保護担当者やGH職員等とも連携を深める。 ②ピアサポーターや社会資源見学事業を活用して患者さんの退院意欲喚起を行う。 	<p>病棟個別相談会を2回実施。ピアサポーターのリカバリーストーリーやケアマネジャーから介護保険制度を利用した地域での暮らしの講義・ピアサポーターにも個別相談会のブースに入ってもらった。</p> <p>9月には2回社会資源見学事業を利用し有料老人ホーム・生活介護見学・GHとB型を見学。B型所属のピアサポーターにもお話をいただいた。</p>
高齢分野との連携の構築	ブロック内で高齢分野との連携の取り組みを共有し、各区ごとに高齢分野と連携を図る。	モデル区を選定し取り組みを行った。来年度は、3か月1回事例検討を行い顔のみえる関係作りを継続し、地域課題の共有の場として活用。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①地域移行支援実利用者数	25件/年	64件/年	達成できない可能性あり(前年度32件)。今後の課題。
②高齢分野との協議の場	6回/年	4回/年	地域のネットワークの強化
③社会資源見学事業の利用回数	2件/年	2件/年	退院意欲の喚起・PSW以外の職種の資源の周知

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

1. 協議の場に参加している精神科病院数が多い。
2. 保健センターの単独庁舎区が多く、相談や地域づくりを中心業務としている相談員が4区中3区ある

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
高齢者支援機関との連携	地域包括支援センター職員を招いて、院内見学ツアーを実施し、高齢者を支援した実際の事例について、事例検討会を実施。	これまで保健センターが入っていなかった、基幹相談支援センター及び地域包括支援センターの連絡会議に、ブロックの活動を通じ参加するようになった。
ピアサポーターの活用	精神科病院にて2名のピアサポーターが退院への動機付け支援を実施。	精神科病院との連携促進。 長期入院患者に対する退院への動機付け支援。
地域移行支援制度の周知及び一般相談支援事業所の育成	圏域内の2つの精神科病院に対し、制度説明会を実施。	地域移行支援制度の周知。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①高齢者支援機関との交流等の実施	2回/年	4回/年	4区毎のブロック単位だけではなく、各区において連携が進んでいる。
②ピアサポーターの活用	2回/年	2回/年	退院への動機付け支援
③地域移行支援利用者数の把握	10名/年	22名/年	地域移行支援の制度の普及

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

- ①地域移行支援を先進的に取り組んでいる区がある。
- ②協議の場を精神科病院で開催できている。
- ③ピアサポーターの育成や活用に積極的であり、地域精神保健福祉に根差した団体がある。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
地域づくりの観点で、精神科病院と地域の支援者がどのように連携できるか。	精神科病院・保健所支所・基幹支援センターがグループを作り、各々ピアサポート活用事業や院内説明会等を実施。	取組みを通して、同ブロック内他区にある関係機関が顔の見える関係を築けた。
精神障害者ピアサポーターの活躍の場が少ない。	地域で暮らす当事者や支援者に対してピアサポーターが自身の体験談を話し、精神障害者理解の普及啓発を行った。	ピアサポーターに自信が付き、ピアサポーターとして役割を担うモチベーションの向上が見込まれた。
地域移行支援制度の中心を担う相談支援事業所の相談支援専門員の育成	3月5日に保健・医療・福祉関係者向けに地域移行支援についてのケース報告・意見交換を実施予定。	3月5日に実施予定。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①ピアサポート活用事業の実施	18回/年	10回/年	ピアサポーターを支える仕組みづくり
②病院と地域が連携した事業(イベント)の実施	4回/年	4回/年	事業を通して連携強化を図る。
③地域の支援者が語り合える場を設置	0回/年(1回開催予定)	1回/年	本音で語り合うことで不安や助言を共有

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。